

平成29年度 都城市立菓子野小学校 自己評価書

※4段階評価(4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する)

評価項目	評価指標等	方策・手立て	自己 評定	結果の考察・分析及び改善策等
1 基礎学力の向上	① 基礎的・基本的学習内容の確実な定着	○ 学業指導の徹底 ○ 授業改善、指導法の改善 ○ 主題研究を通じた共通理解・共通実践 ○ スキルタイムの充実 (We b学習単元評価等の完全実施・国語科スキル実施) ○ 個に応じた指導の充実	2	○ 読む力を培う国語科学習指導の研究を通して、授業の工夫・改善を行い、言語活動に力を入れた。 ○ 各種学習状況調査の結果を全職員で分析し、指導に生かすことができた。今後、C R T結果を学習指導に生かしていく。 ○ 各学級で個に応じた児童への指導を心がけてきた。基本的な学習習慣の定着が身に付くよう指導を繰り返していく。 ○ 学校と家庭が連携し、児童の読書意欲を高めていったが、個人差がある。 ○ 「家庭学習の手引き」を配付し、指導を行ってきた。「家庭学習週間」も設定し、保護者にも目を通してもらうなど意識化を図ったが、保護者との連携体制に温度差がある。 ○ ノーメディアの必要性を保護者に伝え、家庭での実践を推進していく。
	② 読書活動の推進	○ 児童の読書意欲向上 ○ 読書の質の向上 ○ 読み聞かせの全学年実施	3	
	③ 家庭学習の充実	○ 家庭と連携した家庭学習の習慣化 ○ 各家庭での家読の実施 ○ ノーメディアデーの推進	2	
2 豊かな心の育成	① 道徳教育の充実	○ 思いやりの心の醸成 ○ 「特別な教科 道徳」の実践 ○ 環境美化の推進 ○ 花栽培による心の育成	3	○ 道徳の時間の指導は、各学級で確実に指導し、10月のオープンスクールでは、道徳の授業参観を実施した。保護者や祖父母、地域の方々に参観していただいた。 ○ 高学年を中心として、毎朝、自主的なボランティア活動を行うことができた。 ○ あいさつや返事、言葉遣い等については、繰り返し指導をしてきた。整理整頓、無言清掃の徹底を図っていく必要がある。 ○ 学校のきまりを守るように、全児童を全職員で指導する体制をとり、職員間で連携しながら指導にあたった。 ○ 地域の方を招いたり地域に出かけたりした授業や全校で遊ぼう集会などを実施し、多くの人と交流を図った。今後も感動体験を教育活動において工夫したり、学級活動等の指導の工夫・改善を図ってきたい。
	② 基本的な生活習慣の徹底	○ 規範意識の高揚 ○ 「菓子野っ子よい子の1日」の徹底 ○ 気持ちよいあいさつや正しい言葉遣い ○ 無言移動、無言清掃	2	
	③ 人権教育の充実	○ お互いを認め合う心の育成 ○ 自己肯定感の高揚 ○ 指導法の工夫・改善	3	
3 健康安全教育的の推進	① 体力向上プランの確実な実施	○ 運動に取り組む環境整備 ○ 体力テストの結果	3	○ 持久走や縄跳びを旬間として、業間活動に位置付け、実践した。新体力テストの結果から次年度へ向け、男子は立ち幅跳び、女子は上体起こしをさらに指導の工夫を行っていく。 ○ 「早寝・早起き・朝ごはんチャレンジ週間」を設定し、家庭での実践化を図ったが、早寝ができていない。家庭と連携をし、徹底していく。 ○ 立腰が昨年度よりできていない。年度当初に指導を強化し、学習中の姿勢がしっかり身に付くようにする。 ○ さらに、防災体制の徹底を図っていく。 ○ 安心・安全メールで緊急事案等について情報を発信できた。 ○ 「弁当の日」は、計画通りに確実に実践できた。全児童が各家庭で意欲的に取り組むことができた。
	② 健康安全教育的の充実	○ 「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化 ○ 立腰指導の徹底 ○ 防災体制整備による安全確保 ○ 緊急時等の連絡体制整備	3	
	③ 食育に関する指導の推進	○ 「子どもがつくる弁当の日」の実践 ○ 栄養指導の充実	3	
4 ふるさと学習推進	① 地域の教育資源の積極的な活用	○ 地域と関連させた総合的な学習の時間「きらめきタイム」の充実 ○ 伝統芸能の継承	3	○ 各学年の学習活動で地域の人材・素材を生かした学習を行うことができた。 ○ 保存会の協力のもと、3、4学年が俵踊りを練習し、運動会、庄内ふるさとまつりで披露することができた。 ○ そよかぜグループの協力で家庭教育学級では、そば収穫・そば打ちを実施し、有意義な体験の機会となった。 ○ 各地区の祭等や庄内地区ふるさとまつりへの参加も多かった。
	② 地域や各関係機関と連携した体験活動の実施	○ 学校支援ボランティア組織の活用 ○ 各関係機関と連携した体験活動 ○ 地域行事への積極的参加	3	
5 信頼される学校づくり	① 教職員の資質向上	○ コンプライアンスの遵守	3	○ 研修や日常の声かけ等を徹底し、コンプライアンス遵守の徹底を図った。 ○ きめ細かな対応を心がけ、さらに、家庭、地域と連携を図っていく必要がある。 ○ 警察署、消防団等を活用し、児童にとって身近な防災を学ぶことができた。 ○ 学校運営協議会を計画通り実施することができ、本年度は給食交流も実施できた。 ○ ホームページの給食のメニューをこまめに更新することができたが、学校の様子は適時更新できなかった。学校便りは毎月発行することができ、学校での児童の様子等を伝えることができた。 ○ 中学校や幼稚園・保育園との情報交換を図ることができた。今後も連携をとり、交流も深めていく必要がある。
	② 家庭・地域との連携・協同	○ 家庭・地域との密な連携 ○ 地域と連携した防災 ○ 学校運営協議会の充実	3	
	③ 教育活動の外部発信とP Cネットワークの活用	○ 学校だよりの発行 ○ ホームページの充実	2	
	④ 一貫教育の充実	○ 庄内地区小中一貫教育、幼保小連携の推進	3	

次年度方向性についての校長所見

○ 本年度は、児童の基本的な学習習慣の定着、学校生活のきまりを守る等に職員間で連携しながら指導をしていった。今後とも、学習の基 本である立腰や読書習慣、生活や健康の基盤である「早寝・早起き・朝ごはん」については、学校で継続して指導するとともに保護者・P T Aと連携し、定着させていきたい。次年度へ向けて、特に「基礎学力の向上」「豊かな心の育成」「信頼される学校づくり」について、評価指標や手立て・方策を見直しとともに、さらに教育活動を充実させて、本校のめざす児童像へと児童を育てていきたい。